

イノシシの掘り返し、増えてるの？減ってるの？
イノシシの痕跡数えて6年目

田んぼの畔や道路の脇などに、イノシシが掘り返した跡を見たことがある人は多いと思います。また、村内の方から、「秋以降に掘り返しが増えた」などと聞くことがあります。実際にイノシシが増えたか減ったかということは、山の中まで調べないと分かりませんが、身近にある掘り返しなどの痕跡を見ることで、イノシシが人間の生活圏に出没しているかどうかの目安になります。昨年と比べて掘り返しなどの痕跡が多くなっているのか、もっと前と比べるとどうなのか、なんとなく感覚的に分かっている人もいますが、実際どうなのでしょう。

毎年同じ時期に決まったルートを歩いて、イノシシの掘り返しや足跡などの痕跡を数えてみれば、イノシシの出没が増えているのか、減っているのか、どのあたりに多く出没しているかが見えてきます。

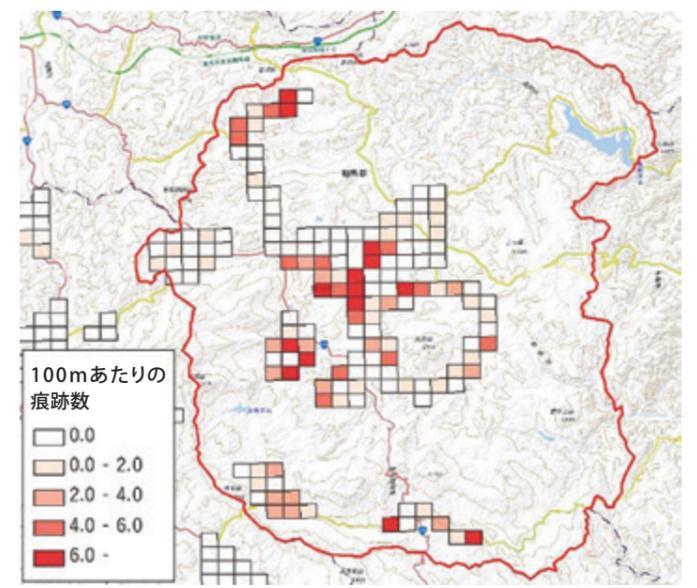
実は、私たち支援員は、避難12市町村でイノシシの痕跡を数える調査を令和元年度から毎年行っています。今年の調査が終わりましたので、飯館村の結果をご紹介します。

調査の結果

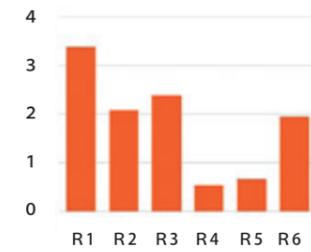
まず、令和6年度の100mあたりの痕跡数を見てみましょう。地図の中の枠の部分で、赤色が濃いほどイノシシの痕跡が多かったところです。市町村境の山間部だけでなく、村の中心部に近いところでも、痕跡の多いところがみられます。

次に、飯館村での令和元年度から令和6年度のイノシシ痕跡数の変化を見てみましょう。令和元年度は最も痕跡数が多く、令和4年度にかけて大きく減少しています。捕獲などの対策の効果や、イノシシの間で病気が流行したことなどが原因として考えられます。

しかし、令和5年度からは増加に転じて、令和6年度は大きく増加しています。



(地図) 100mあたりの痕跡数



(グラフ) 100mあたりの痕跡数年度ごとの変化

結果から言えること

山間部以外でも、イノシシの痕跡が多くみられます。住宅や農地など、どこにイノシシが出没してもおかしくないのが、イノシシの餌になるようなゴミなどを放置せず、対策を怠らないようにしましょう。

また、令和4年度までイノシシの痕跡が減っていましたが、また増えてきています。出没している様子があれば、早めに対策を検討しましょう。

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する京黒さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

きょうくろ あつし
京黒 篤志 さん

令和3年1月から福島県避難地域鳥獣対策支援員を務めています。令和6年度から飯館村の主担当となりました。

子育て支援

歴史の散歩道

「未来を輝かせる子ども達は村のたからもの」と掲げ、飯館村は、少子高齢化や若者世代の減少が課題とされ始めた平成年代に、数多くの子育て支援事業をスタートさせています。平成15年に策定した「いいいたてエンジェルプラン」は、国が少子化対策として示した計画書「エンゼルプラン」に、表裏一体の課題と捉えた「男女共同参画」のプランを盛り込んだ計画書で、先進的な取り組みとして、県内外から注目を集めました。

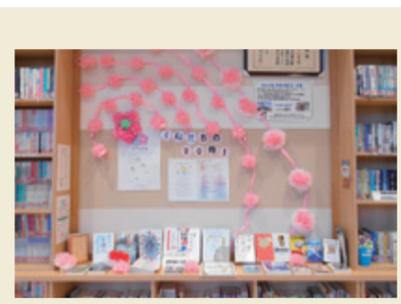
このプランを元に独自に制作した「パパ宣言手帳(父子手帳)」は、パートナーや子どもとの関わり方について、大切なポイントをイラストややさしい言葉で伝えています。また、男女関係なく子育てについて学びを深める講座やフォーラムなど



「いいいたてエンジェルプラン」(左/平成16年度～)、「パパ宣言手帳(父子手帳)」(上/平成16年度～)



村オリジナルの問題による「パパカ(ぢから)検定」。パパ講座シリーズの一環で行われました。(平成22年)



(右) 飯館村二十歳の成人式にて「はたちの20冊」から1冊ずつ、20歳の皆さんに本を贈りました。(上) 交流センターの図書コーナーで展示も行っています。

生涯学習課 ☎0244-42-0072

ふれ愛館だより

はたちの20冊

今年も一般財団法人出版文化産業振興財団(JPIC)のご協力のもと『はたちの20冊』の冊子を制作しました。20歳を迎えた方はもちろん、大人の方にもおすすめの本が紹介されています。

紹介されている20冊の本は、交流センターで貸し出しを行っています。ぜひ手に取って、新しい本との出逢いのきっかけをつくってみてください。

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。